

ご挨拶

椿 省一郎

日本ねじ研究協会は、ねじの生産者、需要者、学識者が、知識・経験を結集して、ねじに関する研究開発と技術の向上を図り、合わせて標準化を推進すべく、昭和 44(1969)年に創立されました。そしてこれまで 53 年間に亘り、ねじの研究と技術の向上を図ると共に、ねじ締結の適正使用を促し、国内標準化（JIS）と国際標準化（ISO）の中核機関として規格開発に携わり、国際貿易の円滑化と工業標準化の推進に貢献し、今日のねじ産業の基盤を築き、社会的地位の向上に寄与してきたと思います。

ねじは、いち早く国際規格として標準化され普及し、世界の産業を支えてきました。これからも新たなニーズをいち早くキャッチして、一歩先の技術を持ったねじの研究開発を続けていくことが、我々の使命と考えます。

日本ねじ研究協会では、2019 年に迎える創立 50 周年を機に、100 周年に向かっての新たな一歩にしようとの合意のもと、その内容について、会長に就任した 2017 年より、運営委員会で議論を重ね、諸準備を進めました。その結果、当協会は、それまで任意団体であるがゆえに、公的な社会的信用を得られず、苦勞するなどの問題もありましたが、2020(令和 2)年 4 月、社会的に認知された法人へと組織を変革し、一般社団法人となりました。この移行に際しましては、運営委員の皆様方には、大変ご苦勞をお掛けしました。

そして新たな出発となった今期の 2 年間は、コロナ禍にあつて、従来のような活動はままならない中でしたが、オンラインを積極的に活用して、各委員会活動も確実に行われ、また人材育成委員会が、新たな活動としてスタートしました。

これからもアフターコロナを見据え、より一層絆を深め、連携を強化し、充実した活動へと、会員の積極的なご参加で盛り上げて頂きたいと思います。

私は今期で会長を退任しますが、澤新会長には、持ち前のパワーとリーダーシップを大いに発揮して頂き、協会が益々発展しますことを祈念しております。

最後になりますが、今日を迎えることができたのは、ひとえに関係官庁、関係諸団体、会員の皆様方のご支援ご指導の賜物であります。この場をお借りいたしまして、衷心より厚く御礼を申し上げます。

そして、会員の皆様様のご健勝と益々のご活躍を祈念し、御礼と退任の挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございました。